

矢作川水系流域治水プロジェクト2.0の 取り組み状況

令和 8年 3月 18日

国土交通省 中部地方整備局

豊橋河川事務所

流域治水プロジェクト2.0

令和7年4月公表版

～流域治水の加速化・深化～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

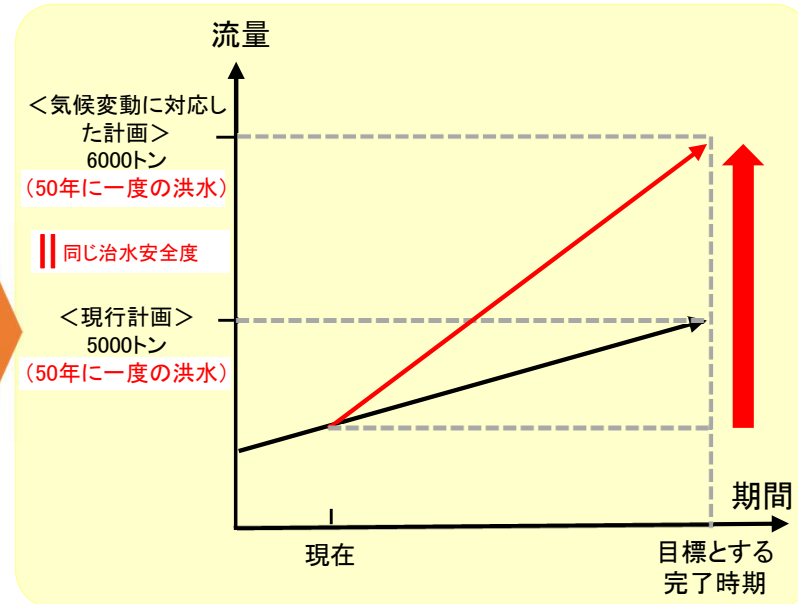
現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

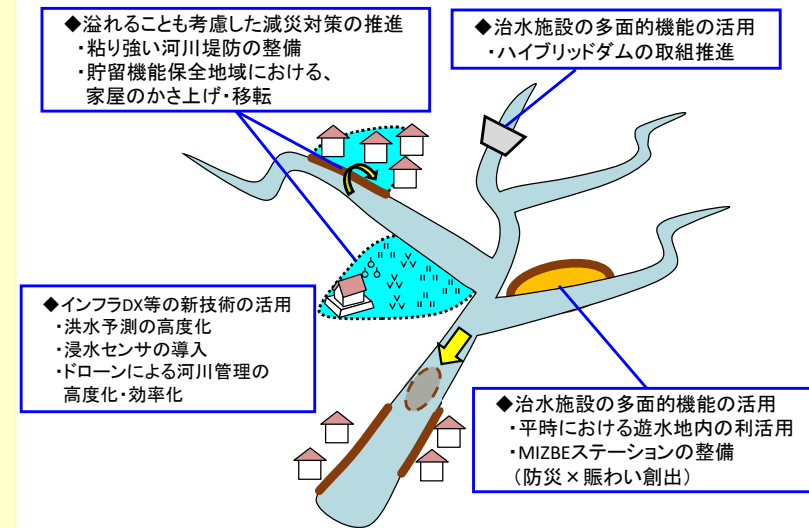
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

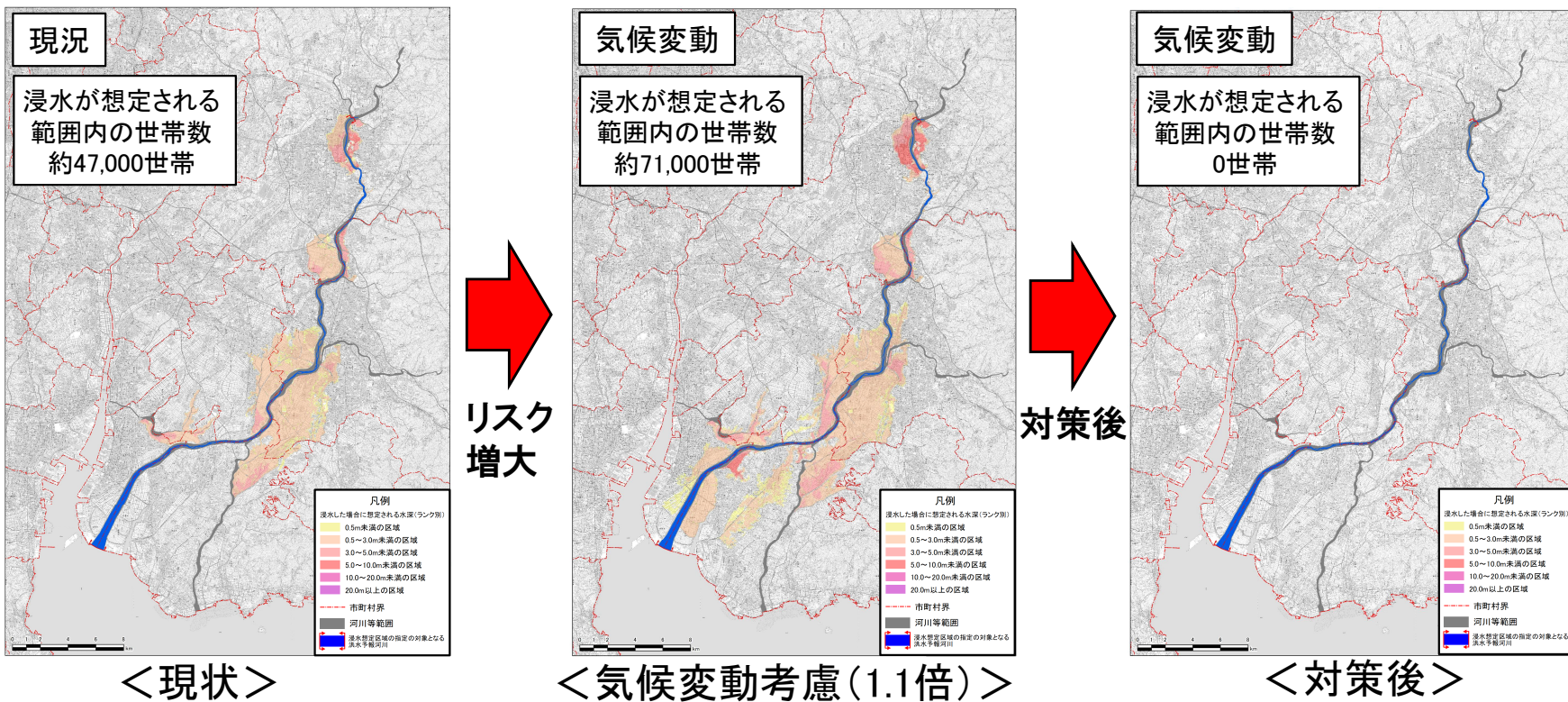
同じ治水安全度を確保するためには、**目標流量を1.2倍に引き上げる必要**

※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

○整備計画で目標としている戦後最大の平成12年9月洪水(東海(恵南)豪雨)に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、矢作川流域では浸水が想定される範囲内の世帯数が約71,000世帯(現況の約1.5倍)になると想定され、事業の実施により、家屋浸水が解消される。

■気候変動に伴う水害リスクの増大



【目標①】
KPI: 浸水が想定される範囲内の世帯数
約71,000世帯
→0世帯
《左図の取り扱い》

- 左図は、矢作川の国管理区間について、河川整備計画規模及び気候変動考慮後の外力により浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 左図<対策後>は、矢作川の流域治水プロジェクト2.0に位置付けている、国が実施する氾濫を防ぐ・減らす対策を実施した後の状況を勘案したうえで、氾濫した場合の浸水の状況を、シミュレーションにより予測したものです。
- なお、国管理区間以外における本・支川の氾濫や内水による氾濫等は考慮されていません。
- 具体的な対策内容については、今後の調査・検討により変更となる場合があります。

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後の平成12年9月洪水規模に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約71,000世帯の浸水被害を解消	河道掘削: 約530万m ³ 洪水調節施設: 既設ダムの有効活用検討 横断工作物の改築	順次実施
被害対象を減らす	市町村	立地適正化計画による居住誘導	立地適正化計画に基づく防災指針の作成	概ね10年
被害の軽減・早期復旧・復興	国	被害の早期復旧・復興	防災拠点等の整備、広域防災ネットワークの構築、排水作業準備計画の検証	概ね15年
	市町村	避難確保計画作成し、実効性ある避難により、被害を軽減	要配慮者施設の避難確保計画作成の促進	概ね10年

【目標②】市町における内水被害の軽減

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	豊田市	市内の水害リスク軽減	雨水貯留浸透施設の設置	順次実施
	幸田町	町内の水害リスク軽減	農業用排水機場の整備、更新	順次実施
被害対象を減らす	豊田市	市内の水害リスク軽減	浸水実績区域等での規制強化に向けた検討	概ね30年
被害の軽減・早期復旧・復興	西尾市	被害の軽減・早期復旧・復興	貯留区域内の避難路整備検討(冠水対策)	概ね30年

矢作川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図】

令和8年3月更新版

～日本の産業を支える「ものづくり拠点」を水害から守る流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、以下の取り組みを一層推進していくこととし、更に矢作川の国管理区間においては、**気候変動(2°C上昇)下でも目標とする治水安全度を維持するため、河川整備計画で目標としている平成12年9月洪水(東海(恵南)豪雨)に対し2°C上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水において、安全に流下させることを目指す。**
- 日本の産業を支える「ものづくり拠点」であるが、狭窄部や台地・山地に挟まれた地域に都市機能や産業が集積し、水害リスクが高い流域であることから、**既設ダムの有効活用検討**や**河道掘削等の河道改修**、被害対象を減少させるための対策、広域防災ネットワーク構築等のソフト対策を併せて実施し、浸水被害の軽減・早期復旧を図る。

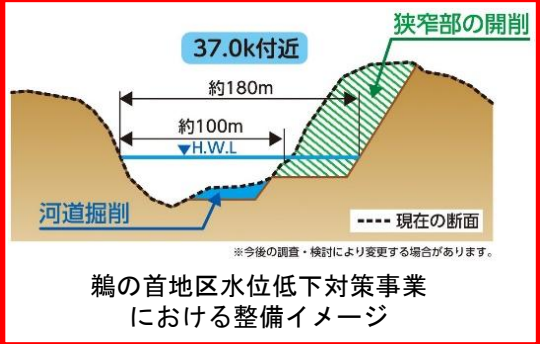
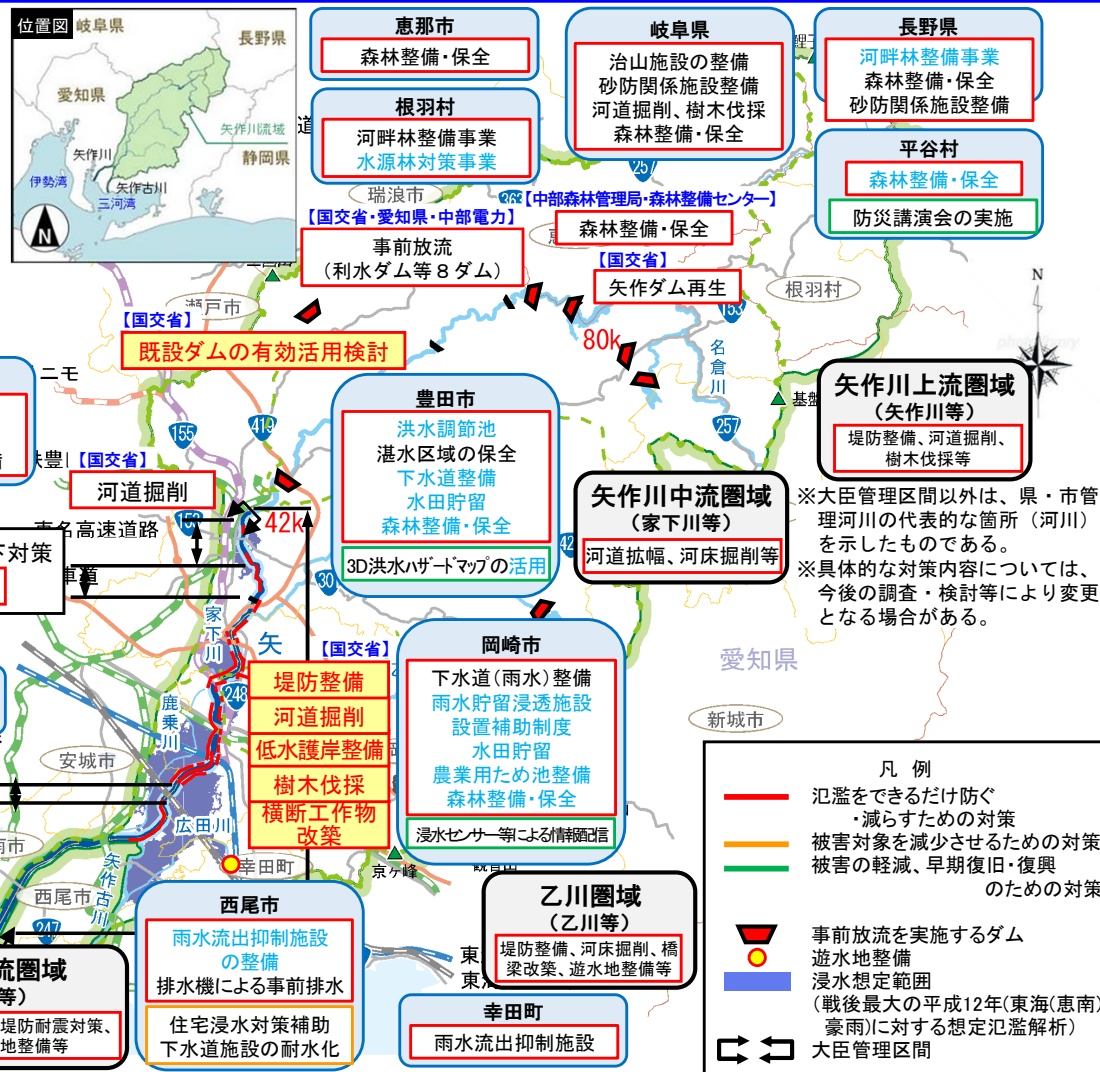
- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ソフト施策の推進

【豊田市・岡崎市・安城市・西尾市・瀬西市】 立地適正化計画に基づく防災指針の作成	【豊田市・岡崎市】 洪水プッシュ型情報配信・浸水センサー等による情報配信	【豊田市】 企業へのBCP作成セミナーの開催
【豊田市】 浸水実績区域等での規制強化に向けた検討	【安城市・幸田町】 手作りハザードマップの作成 風水害ハザードマップの作成	【西尾市】 貯留区域内の避難路整備検討
【西尾市】 住宅浸水対策補助制度	【幸田町】 防災リーダー養成研修会の実施	【豊田市】 防災公園(高台避難地等)の整備検討
【豊田市】 「みずから守るプログラム」の普及促進	【豊田市】 各自治会へのタイムライン作成支援	【岡崎市】 隣接市等への広域避難体制構築
【豊田市・岡崎市・西尾市・幸田町】 洪水浸水想定区域図の作成	【豊田市】 防災教育・防災訓練	【国交省】 三次元管内図による浸水想定の見える化
【豊田市・岡崎市・西尾市・幸田町】 防災出前講座の実施	【豊田市】 土砂災害リスク情報の現地表示	【豊田市】 内外水統合の水害リスクマップの作成
【豊田市・岡崎市・西尾市・幸田町】 要配慮者施設避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	【豊田市】 土砂災害警戒区域等の周知	【豊田市】 防災拠点等の整備
【国交省】 河川防災ステーションの活用	【豊田市】 人材育成・防災意識の醸成	【豊田市】 広域防災ネットワークの構築
		【豊田市】 排水作業準備計画の検証
		【豊田市】 水害リスクの高い区間の監視体制の整備

黒字：流域治水プロジェクト(現行)
赤字：流域治水プロジェクト2.0からの追加対策
直轄メニューは

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。



氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持)</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢作ダム再生 ・堤防整備の推進 ・粘り強い河川堤防の整備 ・河道掘削、樹木伐採の推進 ・低水護岸整備 ・横断工作物の改築 ・遊水地整備 <p>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道(雨水)整備 ・湛水区域の保全 ・森林整備・保全・水源涵養機能の向上 ・治山施設の整備 ・砂防関係施設の整備 ・河畔林の整備 ・雨水流出抑制施設 ・雨水貯留浸透施設設置補助制度 ・洪水調節池 ・水源林対策事業 <p>○多面的機能を活用した治水対策の推進</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドダム(事前放流含む)の取組の推進 ・水田貯留 <p>○既存ストックの徹底活用</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利水ダム等における事前放流等の実施、 体制構築 ・農業用ため池の活用 ・既設ダムの有効活用検討 	<p>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸水ハザードエリア等における浸水対策 (下水道施設の耐水化等) ・住宅浸水対策補助 <p>○溢れることも考慮した減災対策の推進</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画に基づく防災指針の作成 ・防災・減災のための住まい方や土地利用 ・土地利用規制・誘導 ・浸水実績区域等での規制強化に向けた検討 	<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持)</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点等の整備 ・広域防災ネットワークの構築 ・排水作業準備計画の検証 <p>○役割分担に基づく流域対策の推進</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者施設の避難確保計画作成促進 ・企業へのBCP作成セミナーの開催 ・「みずから守るプログラム」の普及促進 ・防災リーダー養成研修会・人材育成等の実施 ・手作り・風水害ハザードマップの作成 ・各自治会へのタイムライン作成支援 ・防災教育・防災訓練・防災出前講座 ・貯留区域内の避難路整備検討(冠水対策) ・防災公園(高台避難地等)の整備検討 ・隣接市等への広域避難体制構築 <p>○多面的機能を活用した治水対策の推進</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川防災ステーションの活用 <p>○インフラDX等の新技術の活用</p> <p>＜具体的取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸水センサーの設置・運用 ・洪水プッシュ型情報配信 ・水害リスクの高い区間の監視体制の整備 ・土砂災害リスク情報の現地表示 ・土砂災害警戒区域等の周知 ・三次元管内図による浸水想定の見える化 ・内外水統合の水害リスクマップの作成 ・洪水浸水想定区域図の作成 ・3D洪水ハザードマップの活用

※赤字：流域治水プロジェクト1.0からの追加対策

矢作川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図】

令和8年3月更新版

～日本の産業を支える「ものづくり拠点」を水害から守る流域治水対策～

●グリーンインフラの取り組み 『下流域の多様な生物の生息・生育環境の再生と市街地の良好な水辺空間の創出』

- 湿地や干潟が少なくなった日本では、矢作川河口の干潟は渡り鳥にとって貴重な場所・中継地となっている。また矢作川は、中上流部にも豊かな自然環境が広がっており、全国屈指の製造業が広がる地域において、身近なところで自然と触れ合える場となっている。
- 矢作川河口部において、シギ・チドリ類など多様な生物が生息・生育する干潟・ヨシ原環境を保全・再生することを目指し、自然再生に取り組むとともに、豊田市市街地においてまちづくりと連携した良好な空間形成を図り、地域の活性化に寄与するため、白浜地区のかわまちづくりの取り組みを進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

●自然環境の保全・復元などの自然再生 干潟再生、ヨシ原再生

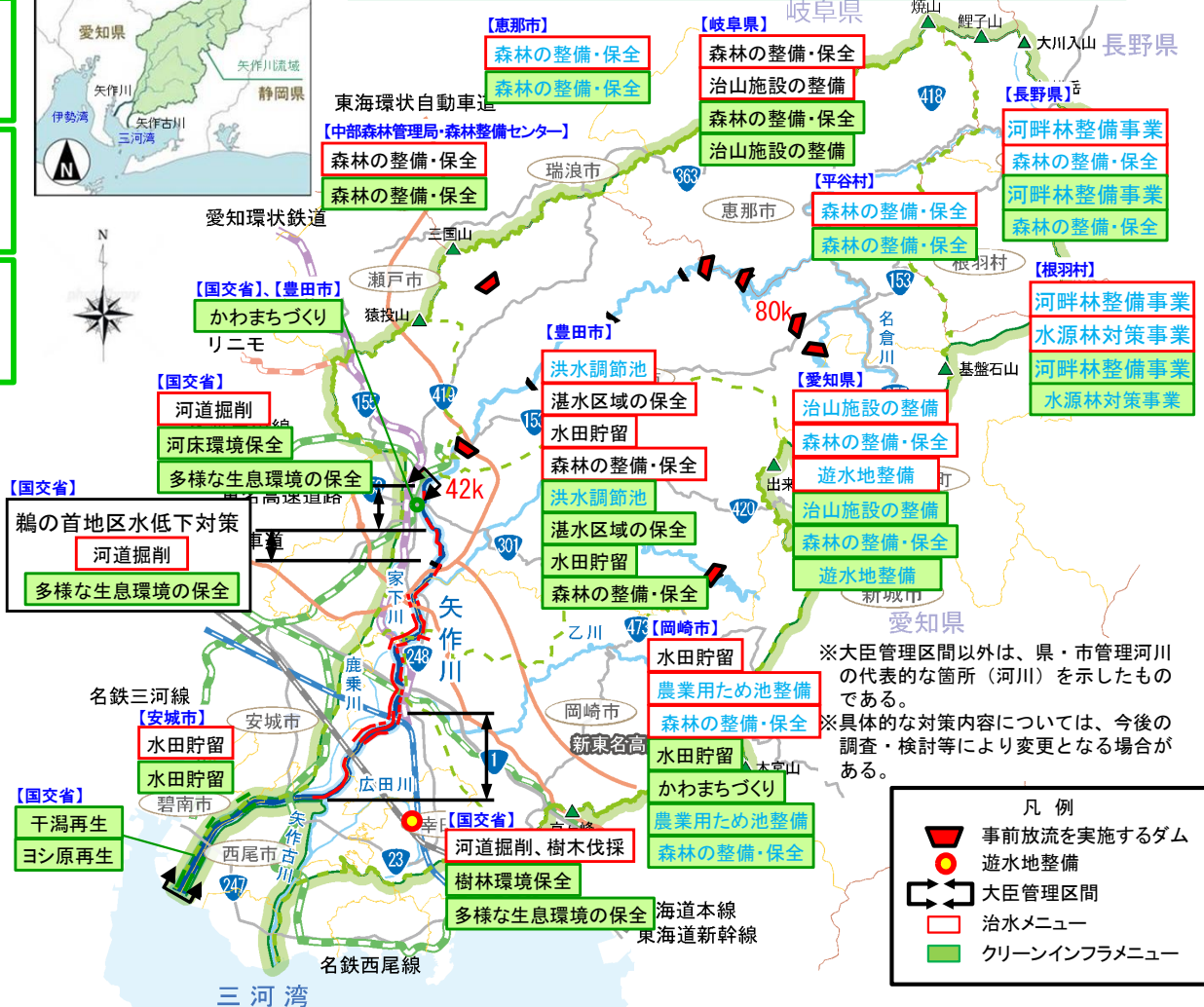
●魅力ある水辺空間・賑わい創出 かわまちづくり（豊田市） 高水敷のオープンスペースにおいて多様な利活用

●治水対策における多自然川づくり 河床環境（瀬・淵）の保全に配慮した河道掘削 河川敷で繁殖している鳥類の樹林環境に配慮した樹木伐採

●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み 小中学生などにおける環境学習 ミズベリング、自然観察

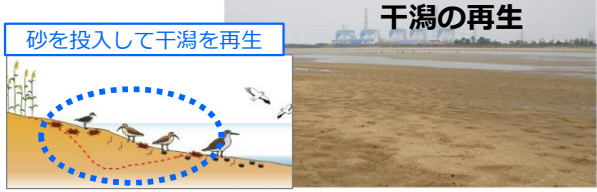


【全域に係る取組】 ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援



※大臣管理区間以外は、県・市管理河川の代表的な箇所（河川）を示したものである。
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

凡例	
	事前放流を実施するダム
	遊水地整備
	大臣管理区間
	治水メニュー
	グリーンインフラメニュー



干潟の再生



ヨシ原の再生



更新予定

～日本の産業を支える「ものづくり拠点」を水害から守る流域治水対策～

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p>整備率：79% (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>5市町村 (令和6年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>19施設 (令和5年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 9箇所 (令和6年度実施分) 砂防関連施設の整備数 4施設 (令和6年度完成分) ※施行中 28施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>4市町村 (令和6年7月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 29河川 (令和6年9月末時点) 内水浸水想定区域 4団体 (令和6年9月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保計画 899施設 洪水土砂 157施設 (令和6年9月末時点) 個別避難計画 6市町村 (令和5年1月1日時点)</p>
---	--	--	---	--	--	---

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○準用河川等の改修(豊田市)

- 長田川の合流先である、一級河川安永川の改修事業が令和2年度に完了したため、同年より事業着手。
- 川の拡幅だけでなく、洪水調節池を整備することにより、気候変動の影響による降雨量の増加を考慮。



■安永川との合流点付近の様子 ■計画平面図

○森林整備(恵那市)

- 上矢作町高井沢 4.81ha 皆伐
- 上矢作町高井沢 6.60ha 植栽
- 串原鹿ノ瀬 7.11ha 間伐
- 串原閑羅瀬 11.11ha 間伐
- 明智町大小屋 15.67ha 間伐
- 明智町東方 2.88ha 皆伐
- 明智町東方 2.88ha 植栽
- 明智町大田 15.42ha 間伐



■森林づくりの様子

○下水道の整備(岡崎市)

- 六名地区では、乙川へ排水する「六名雨水ポンプ場」の整備完了。令和5年4月より供用開始。
- 日名・元能見・井田南地区では、浸水対策のため八帖雨水ポンプ場の増強を計画。現在、愛宕幹線及び関連雨水施設の工事を実施しており、ポンプ場の本体工事は、これらが完成後に着手予定である。




■新八帖雨水ポンプ場(完成予想図) ■工事中の愛宕幹線

被害対象を減少させるための対策

○立地適正化計画(防災指針)の策定(豊田市・岡崎市・安城市・西尾市・碧南市)


- 防災指針の周知・啓発と施策の進行管理を継続して実施。(右は岡崎市の事例)



■岡崎市立地適正化計画防災指針

○住宅浸水対策補助制度(西尾市)

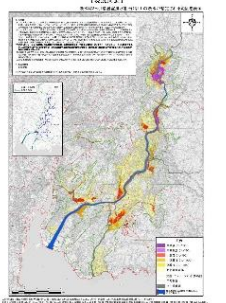
- 令和4年7月の大雨による市民の要望を受けて、「西尾市住宅浸水対策改修費等補助事業」として工事1件を実施(令和8年2月末時点)。



■補助事業リーフレット

○内外水統合型水害リスクマップの作成・公表(豊橋河川事務所)

- 外水氾濫のみと、中小河川や下水道等からの内水氾濫による多段階の浸水想定図・水害リスクマップとを重ね合わせ、内外水統合の多段階の浸水想定図・水害リスクマップを作成。
- 土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討等に活用し、更なる流域治水の取組を推進。



■内外水統合型水害リスクマップ

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

○3D洪水ハザードマップの活用(豊田市)

- 近年豪雨災害の激甚化・頻発化により、洪水による浸水被害が深刻化する中、豊田市では、より分かりやすい水害リスク情報の提供を目指し、「豊田市3D洪水ハザードマップ」を令和7年8月に公開



■豊田市3D洪水ハザードマップ(PC版)の画面

○初動対応促進ツールの整備(西尾市)

- 浸水実績のある場所への水位計・カメラ・浸水センサー等の設置と通知機能の搭載。
- 防災アプリの整備とHPやパンフレットによる普及促進。



■河川防災情報システム ■防災アプリパンフレット

○手作りハザードマップ(安城市)

- 愛知県の「みずから守るプログラム」の支援により、地域住民が主体となって手づくりハザードマップの作成や大雨行動訓練を実施。
- 手づくりハザードマップの作成は、50cm以上の浸水想定区域に該当する63地区が対象。



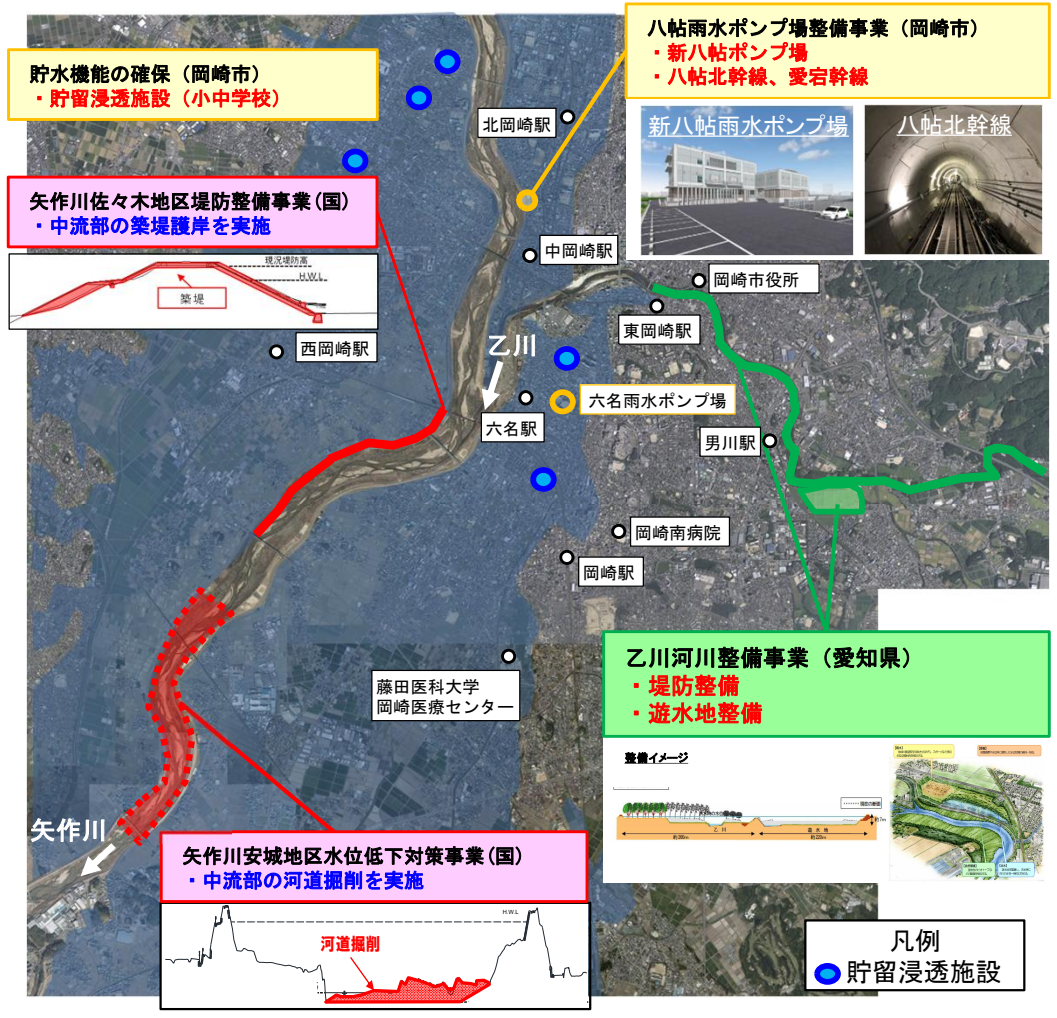
■まちあるき

流域治水の加速化・深化(見える化・協働化の推進)

～矢作川中流部整備と合わせた緊急的な雨水対策による床上浸水の被害の軽減(豊橋河川事務所・愛知県・岡崎市)～

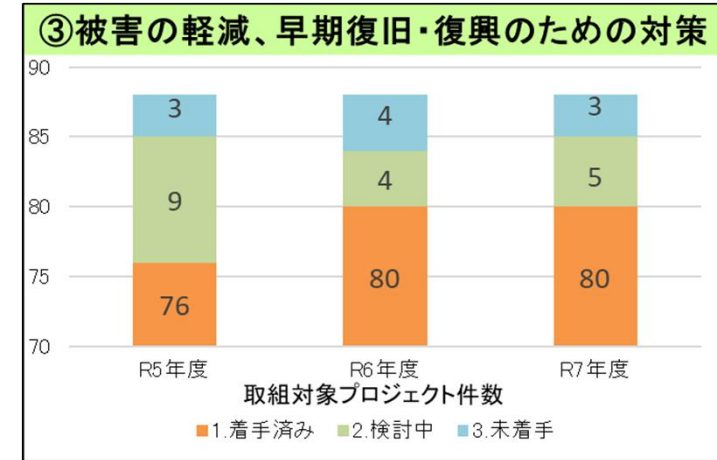
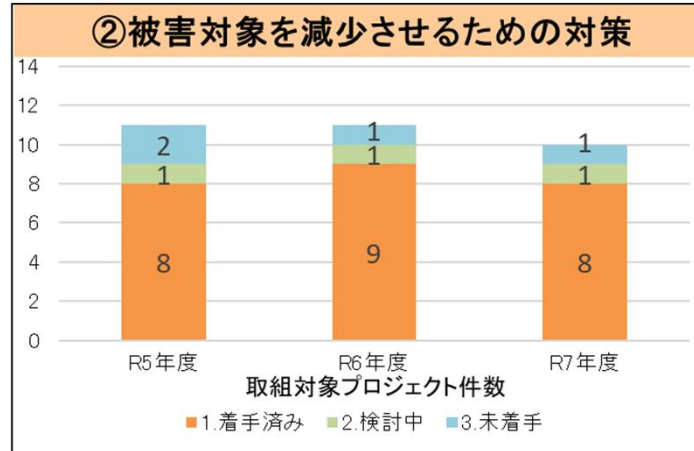
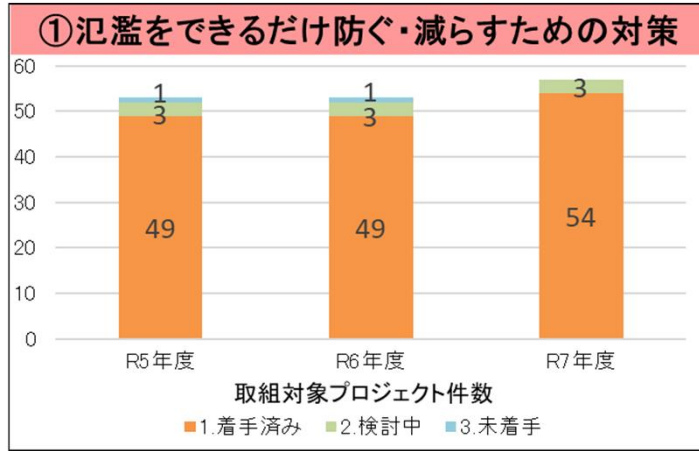
- 岡崎市では、平成20年8月末豪雨災害を機に「災害に強く安全で安心して暮らせるまち」の実現を目指し「岡崎市総合雨水対策計画(H28.7)」を策定し、河川改修や下水道の整備による緊急的な雨水対策を実施。現在は、元能見地区で浸水対策として、八帖北幹線及び愛宕幹線の整備を実施している。また、内水被害の軽減を目的に、岡崎市内の小中学校(8校)の校庭内に流域貯留浸透施設を設置した。
- 国の事業としては、矢作川中流部の外水氾濫を防止するため、堤防の高さ及び断面が不足している箇所を整備及び河道掘削を実施する。愛知県の事業としても、乙川の堤防整備及び遊水地整備を予定しており、国・県・市の矢作川中流域全体での浸水被害軽減を目指し、流域対策を推進する。

＜国・関係自治体を実施する流域対策＞
 目標：平成20年8月末豪雨と同規模の降雨に対して“いのち”を守る。(人的被害“ゼロ”、浸水被害の軽減)



矢作川水系流域治水プロジェクト2.0の取り組み状況

流域治水対策の取組状況アンケート結果(R8.3月時点)



※令和7年度に②被害対象を減少させるための対策の1件を①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策に変更

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 各機関の取組対象プロジェクトについて、57件中54件が着手済み、57件中3件が検討中。
- 雨水流出抑制施設による貯留・浸透機能の拡充や下水道整備の取組等を実施予定の機関全てで着手済み。

被害対象を減少させるための対策

- 各機関の取組対象プロジェクトについて、10件中8件が着手済み、10件中1件が検討中。
- 立地適正化計画における「防災指針」の策定検討は8割の機関が着手済み。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 各機関の取組対象プロジェクトについて、88件中80件が着手済み、88件中5件が検討中。
- 住民の主体的な避難行動を促す取り組み、早期復旧に備えた対策、ソフト対策のための整備等について各機関で継続的に実施中。

【岡崎市】流域治水対策の取組事例 ～下水道の整備～

- 平成20年度発生した集中豪雨以降、県と市が連携して河川改修や下水道の整備による緊急的な雨水対策を積極的に進めている。
- 本市では、「岡崎市総合雨水対策計画」の施策し、岡崎市防災基本条例の自助・共助・公助の理念に基づいた取り組みを行っている。
- 日名・元能見・井田南地区では、浸水対策として八帖雨水ポンプ場の増強を計画しており、愛宕幹線までの八帖北幹線がR6年度に整備完了し、現在は愛宕幹線の工事を実施している。また、今年度より関連雨水施設の工事を実施し、八帖雨水ポンプ場の本体工事はこれらが完成後に着手予定である。

◆平成20年8月末豪雨 浸水被害状況

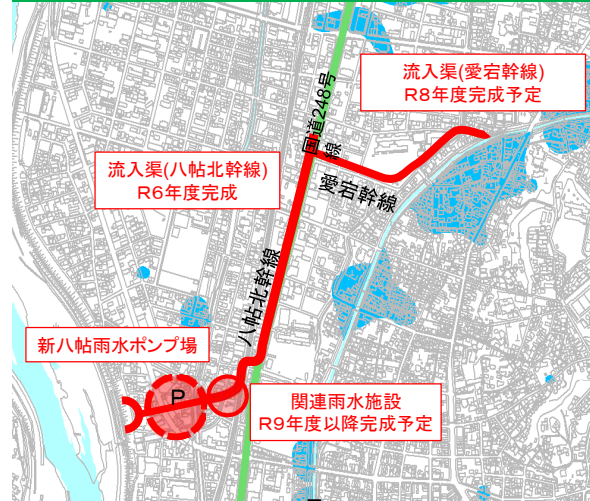
- ・岡崎市観測史上第1位
(時間最大降雨量147mm)
- ・床上浸水: 1,110戸 (73ha)
- ・床下浸水: 2,255戸 (333ha)
- ・人的被害: 死者2名

浸水被害状況



◆事業概要

日名・元能見・井田南地区の浸水対策事業



◇浸水被害状況

平成20年8月末豪雨: 床上浸水445戸、床下浸水668戸

◇整備効果

平成20年8月末豪雨規模に対し床上浸水解消

◇八帖雨水ポンプ場整備事業

ポンプ能力: 14.0^m³/秒→25.0^m³/秒(ディーゼルエンジン)
対象降雨: 10年確率降雨

◇八帖北幹線(令和3年度～令和6年度)

延長 L=1,001m、内径 φ=3,250mm

◇愛宕幹線(令和5年度～令和8年度)

延長 L=369.5m、内径 φ=1,800mm

◇関連雨水施設(八帖北幹線への流入施設)



新八帖雨水ポンプ場
(完成予想図)



八帖北幹線
(シールド工法 φ3,250)



愛宕幹線
(推進工法 φ1,800)

- ・雨水ポンプ場や雨水幹線の整備などのハード対策は限界がある。岡崎市総合雨水対策計画では、雨水の貯留浸透能力を向上させるなどのソフト対策や、水害リスクの回避、避難体制の強化など、総合的な雨水対策を進めることで、浸水被害の軽減を図っていく。

【岡崎市】流域治水対策の取組事例 ～行政情報・地域情報等の発信に関する連携～

- 市としては「雨を速やかに流す」から「雨を貯める、浸透させる」へ発想転換し、“より災害に強いまち”にしたいと考えています。
- その方法のひとつが“雨水貯留浸透施設設置補助制度事業”です。雨水貯留浸透施設設置補助制度を用いて、各家庭で雨水貯留することで、洪水被害を軽減させることができます。
- この事業は、雨水貯留浸透施設の設置を行うため、市民の方の協力が必要なため、HPやパンフレットを作成し、呼びかけを行っています。
- 平成16年に補助制度を開始し、公共下水道事業計画区域内にて補助制度を行っています。

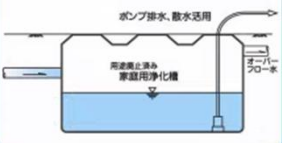
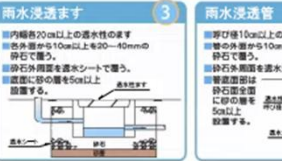
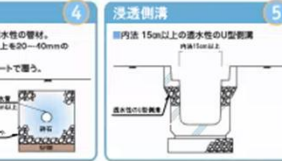

◆取組内容

◆取組効果(あるいは進捗状況など)

雨水貯留浸透施設設置補助制度事業については、下記の貯留施設にて補助を行っています。

助成対象の基準と補助について

①雨水排水専用のもので下記の基準が、同等以上の効果のものに助成します。

<p>既存浄化槽転用雨水貯留槽 1</p> <p>■用途禁止浄化槽</p>  <p>ポンプ排水、散水活用</p> <p>雨水浄化槽 家庭用浄化槽</p> <p>オーバーフロー</p> <p>補助 ① 既存浄化槽転用雨水貯留槽 ・浄化槽費用、工事費の1/2 ・上限90,000円</p>	<p>雨水貯留タンク 2</p> <p>■100ℓ以上のもの</p> <p>ため槽</p> <p>貯留槽(タンク等)</p> <p>オーバーフロー</p> <p>散水活用</p> <p>補助 ② 雨水貯留タンク ・本体及び配管に要する材料費の1/2 100ℓ～300ℓ未満 上限30,000円 300ℓ～1000ℓ未満 上限50,000円 1000ℓ～ 上限60,000円</p>	
<p>雨水浸透ます 3</p> <p>■内径が20cm以上の透水性のます</p> <p>■貯外壁から10cm以上を20～40mmの砂石で覆う。</p> <p>■砂石外周部を透水シートで覆う。</p> <p>■直置きに砂の層を5cm以上設置する。</p>  <p>補助 ③ 雨水浸透ます ・工事費の1/2 ・上限 8,000円</p>	<p>雨水浸透管 4</p> <p>■厚み径10cm以上の透水性の管材。</p> <p>■管の外壁から10cm以上を30～40mmの砂石で覆う。</p> <p>■砂石外周部を透水シートで覆う。</p> <p>■管直置き部は砂石直置き部に砂の層を5cm以上設置する。</p>  <p>補助 ④ 雨水浸透管 ・工事費の1/2 ・上限 8,000円</p>	<p>浸透側溝 5</p> <p>■内径 15cm以上の透水性のU型側溝</p> <p>■内径10cm以上</p>  <p>補助 ⑤ 浸透側溝 ・工事費の1/2 ・上限 8,000円</p>

- ①～⑤共通事項
- 1申請当たりの補助上限額90,000円(複数項目の申請可)
 - 千円未満の端数は切り捨てた額となります。

- ※※※ 注意事項 ※※※
- 雨水をポンプで汲み上げて使用する場合は、固定式ポンプのみを助成対象とします。(移動できるものは不可)
 - 雨水貯留タンクを設置する場合は、基礎・架台工事及びタンク設置費等は助成対象外です。
 - 雨水浸透施設は設置してはならない区域があります。(建物・隣地に近い所、側溝の近接地、急傾斜地など)
 - 各施設とも、オーバーフローによる排水先を確認してください。
 - 将来的な維持管理がしやすい形状のものをご検討ください。
 - 構造等の詳細については事前にお問い合わせください。

雨水貯留浸透施設設置補助制度事業の実績については令和7年度現時点で960件の補助を実施しました。

こんな効果が期待できます

●雨水貯留浸透施設を設置すると・・・

 <p>◆雨水を一時的に貯留し、河川や下水道への負担を軽減します。</p>	 <p>◆雨水の活用により水道料金や下水道料金の節約を図れます。</p>	 <p>◆下水道切替により不用になった浄化槽を活用し、廃棄物の減量化につながります。</p>
--	---	---

ほかにも・・・

- ◆溜めた雨水を庭木の散水等、災害時における代替水源としての利用が図れます。
- ◆雨水を地下に浸透させ、緑と水辺を保全します。



【豊田市】流域治水対策の推進 ～準用河川長田川 河川改修事業～

- 長田川流域は、東海豪雨時に広範囲で浸水被害が発生したほか、度々浸水が発生する治水上脆弱な土地です。
- 一方、長田川流域は中心市街地に近く、道路や鉄道等生活の利便性も高いため、将来は住居系(市街化)の土地利用を構想しています。
- 治水上脆弱な土地で市街化を構想するため、治水対策は万全を期する必要があります。
- 長田川の合流先である、一級河川安永川の改修事業が令和2年度に完了したため、同年より事業着手しました。

◆位置図

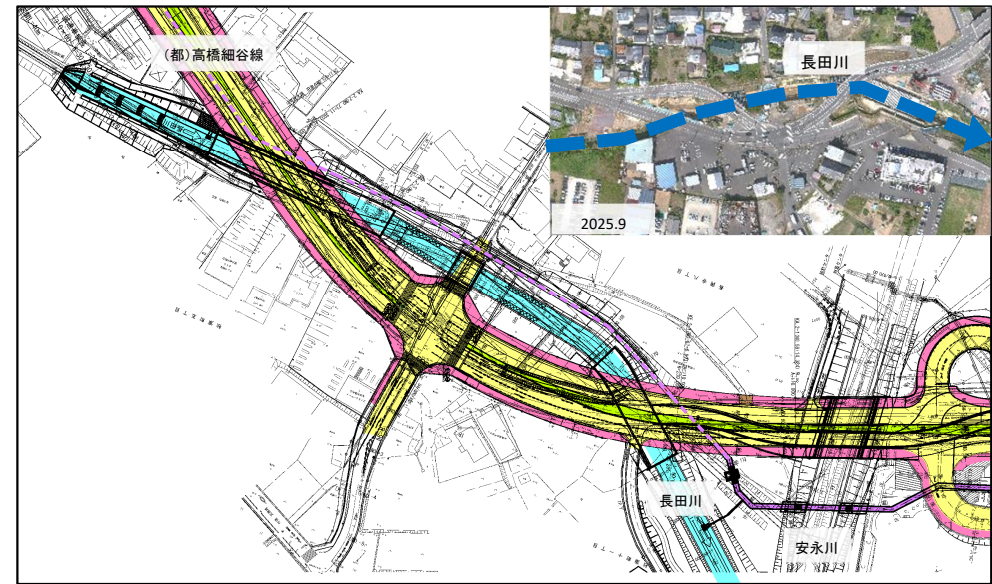


河川延長 L = 3.28km
流域面積 A = 242ha (市街化区域: 80ha 調整区域: 162ha)

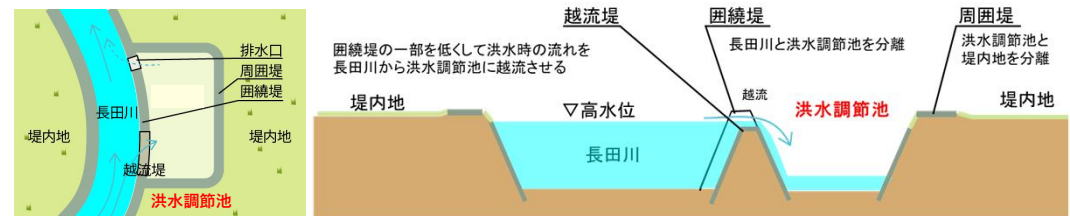
◆安永川との合流点付近の様子



◆計画平面図(道路事業との同調施工部)



◆洪水調節池計画



- 現在は、都市計画道路 高橋細谷線4車線化事業と同調し、河川改修を行っています。
- 川の拡幅だけでなく、洪水調節池を整備することにより、気候変動の影響による降雨量の増加を考慮します。
- 護岸の材料には、表面に凹凸があり、明度が低いものを使用し、河道には石組みによる落差工や置石工を設置し、環境に配慮した多自然川づくりを行います。

【安城市】流域治水対策の取組事例 ～行政情報・地域情報等の発信に関する連携～

- 安城市では流域治水対策として、水田貯留事業を推進しており、平成22年度から令和6年度末までに134.9haの農地で水田貯留の取組みを行いました。
- 毎年8月に開催される安城七夕まつりでは、水田貯留のPR活動を行っています。この取り組みは、令和5年度から継続して実施しています。

◆取組内容

令和7年8月1日、2日、3日に開催された「安城七夕まつり」で水田貯留事業のPR活動を行いました。

安城七夕まつりは3日間で約100万人が来場する大規模なお祭りです。

PR活動については、水田貯留に関するクイズを出題し、全問正解した参加者に啓発品をプレゼントしました。2日間で約300人の方々にクイズに挑戦していただき、参加者からは「水田貯留って言葉を初めて聞いた」「田んぼが防災に役立つことを知った」といった声があがりました。



▲PR活動の様子

安城市の浸水対策水田貯留

水田貯留(田んぼダム)とは

田んぼがもともと持っている水を貯める機能を利用し、大雨の際に一時的に水を貯め、川へゆっくり排水することで、農地や市街地の浸水被害を軽減する取組みです。

市域のおよそ4割を占める農地を生かし、過去に浸水被害のあった市街地の「上流」における田んぼで水田貯留を実施しています。

水田貯留用のせき板が設置された排水マス

排水マス

18cm

5cm

普通は、排水マスの18cmくらいの穴から水は流れ出るのだけど、水田貯留用のせき板には5cmの穴があって、水が少しずつ流れるようになっているのだ!

穴が小さい分、川にゆっくり流れていくのだよ!

雨が降ったときに、川の水が増えることを抑えることができ、街中を水害から守ることができるのだ!

水田貯留実施なし

水田貯留実施あり

令和7年6月3日水田貯留米が、市内すべての小中学校の給食で提供されました。



安城市では、令和6年度から年に1回、食を通じて地域の取り組みを知る機会として、水田貯留の田んぼで収穫されたお米が、市内すべての小中学校の給食で提供されています。

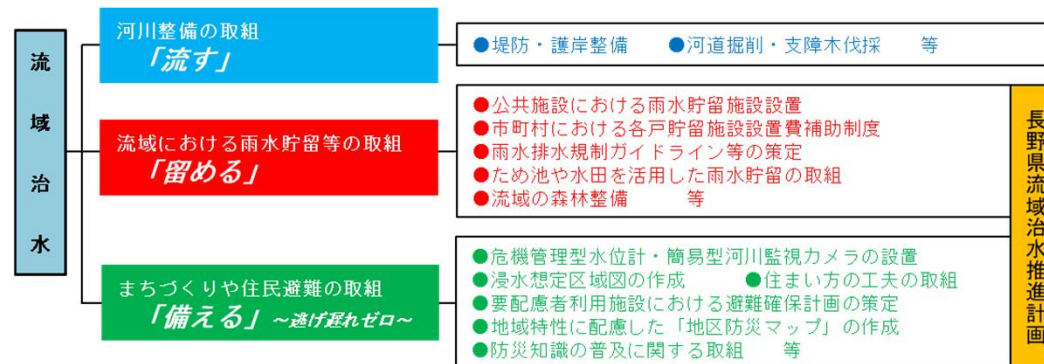


今年度は、古井町の米農家鈴木貴士さんが育てたお米が使用されました。



【長野県】流域治水対策の取組事例 ～モデルを活用した防災教育の取り組み～

- 長野県では、令和3年2月に「長野県流域治水推進計画」を策定し、県・市町村が5年間で実施する流域治水の取組の数値目標を定め、計画的に取り組んでいます。
- 子ども達にもわかりやすく、楽しく「流域治水」を学んでもらえる「流域治水モデル」での実験や学習動画を活用した防災教育を実施しています。
- その他にもCM動画を作成し、テレビCMやYouTube・LINEなどの広告、映画館の上映前の広告等、様々な媒体での広報を行っています。



◆流域治水・防災知識の普及に関する取組内容

- 模型実験に合わせ、学習動画で「流す」「留める」「備える」取組を学び、実際に「留める」取組をじょうろを使い水を降らせることで体験しながら学習します。模型で効果を見ながら、実際に身近でできる取組を考えるきっかけを創出しています。
- その他、防災学習カードを作成し、どの警戒レベルでは何をすべきかを遊びながら学べます。
- R7年度はTV、Web広告（YouTube、LINE、Yahoo）、街なかメディア（映画館、ファミリーマート、綿半、駅）にて広報動画の放映し、流域治水の取組を広げています。



対策あり 対策なし
流域治水模型

動画放映

防災教育、イベント

流域治水の学習・啓発動画

防災学習カード

【長野県】流域治水対策の取組事例 ～住民の主体的な避難行動を促す取り組み～

- ・ 激甚化する災害に備えるため、住民が災害を地区の課題として捉え自ら行動する意識付けが重要と考えています。
- ・ 地域の防災力を高める取組として、「我が事として捉える防災意識の醸成」、「地区防災マップの作成支援」等を実施しています。

◆我が事として捉える防災意識の醸成(赤牛先生派遣事業)

- 避難の基本「自分の命は自分で守る」を説く赤牛先生が、県下各地の公民館などで防災教育を本格展開
- 赤牛先生は、地域に根ざし、土砂災害の経験豊富な砂防専門家「長野県砂防ボランティア協会(会員約500名)」が担う
- 自身の災害経験のもと、クイズやハザードマップも使い、参加者の立場に立った、わかりやすい授業が好評
- 地区住民・役員、小学生からお年寄り、消防団・市町村の防災担当者など、幅広く参加



◆地区防災マップの作成支援

- 地域住民が主体的に避難することを目的とした「住民主導型警戒避難体制」の構築を促進
- 住民参画による地域特性に配慮した地区防災マップの作成、マップに基づく避難訓練で検証

《取組の流れ》

住民懇談会による
自主避難ルール
の策定



自主避難ルールを周知するための
リーフレットの作成



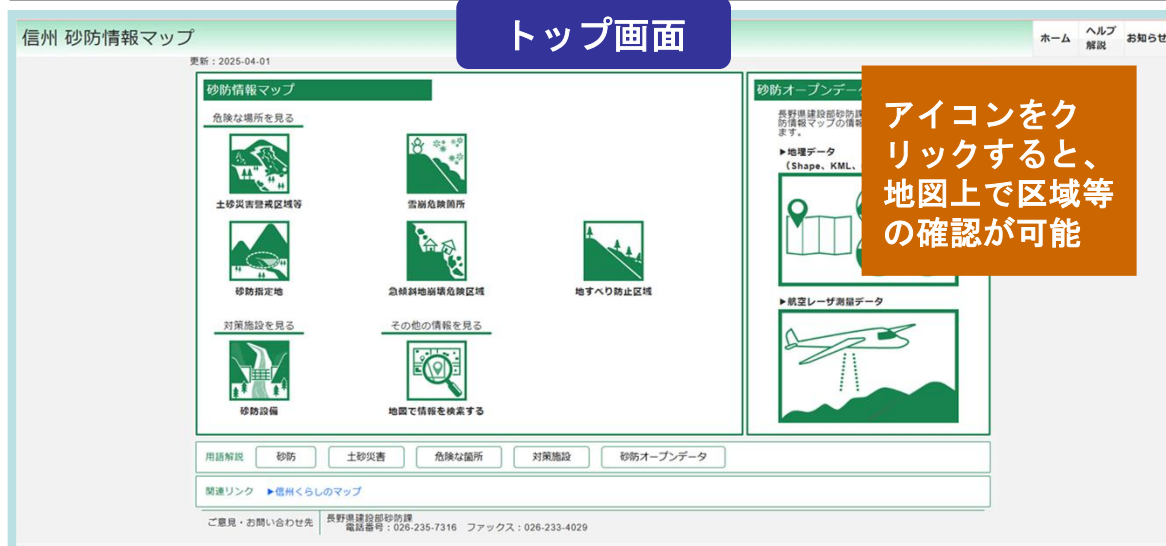
自主避難ルールに基づく
避難訓練の実施・運営



【長野県】流域治水対策の取組事例 ～住民の主体的な避難行動を促す取り組み～

◆「信州 砂防情報マップ」の開設

- 県内の砂防関係情報を一元的に管理するシステムの構築により、情報管理の業務の効率化(DX化)とともに、情報の一般公開を実現
- 県砂防課の運用するWEBサイト「信州 砂防情報マップ」を開設(令和7年4月1日)



掲載情報

- ・土砂災害警戒区域等
- ・砂防三法区域
- ・雪崩危険箇所
- ・砂防設備
- ・航空レーザ測量データ (R2～R3砂防課取得)
- ・その他関連情報 (洪水浸水想定区域図など)

アクセス方法

信州砂防情報マップ



マップの特徴①

- ・土砂災害警戒区域等の基礎調査結果を確認できる
- ・航空写真や赤色立体地図等、複数の背景図の選択が可能で、地形や土地利用等を分かりやすく表現



マップの特徴②

- ・砂防設備の情報を確認できる
- ・県管理の砂防設備の位置と諸元を公開し、溪流の安全性の見える化による地域防災力の向上を支援



【岐阜県河川課】総合学習から学ぶ流域治水 ～防災減災に関する人材の育成～

- ・ 県では国が公表している「流域治水施策集」を参考に県独自の施策を追加し、流域治水の取組を実施
- ・ 県独自の施策の1つに「防災リーダーの育成」を位置づけており、小中学校が行う総合的な学習の時間や地域のNPO団体等が実施する体験学習等で県職員が講師となり、川の危険性、伝統的防災施設の紹介等を実施
- ・ 伝統的防災施設の紹介では、県が作成した「伝統的防災施設」パンフレットを活用し、防災・減災意識を高めている

◆取組内容

実施日：令和7年7月3日

学校：恵那市串原小学校

実施場所：大平川（矢作川の二次支川）

☆川に興味を持ってもらう取組

水生生物の採取



水質調査



☆防災・減災意識の向上に関する取組

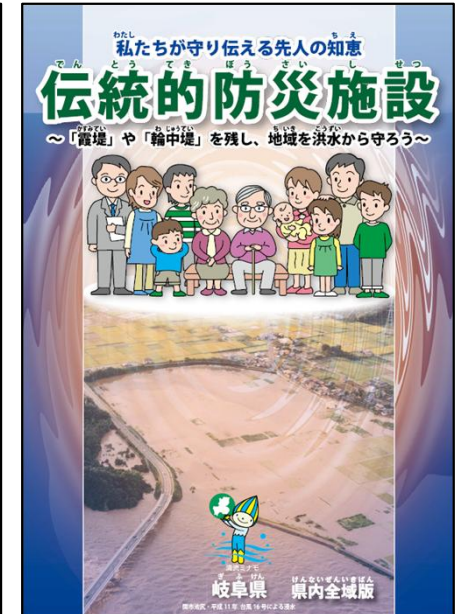
川の危険性を学ぶ



伝統的防災施設の紹介



活動事例を紹介する冊子



伝統的防災施設マップ

◆取組効果(あるいは進捗状況など)

- ・ 生徒からは、「楽しく川を学べた」といった感想に加え「昔の人が作った施設(輪中、霞堤)が今でも活躍していることに驚いた」といった感想があった
- ・ 引続き、体験学習等を通じて、流域治水の取組を幅広く紹介していく

【愛知県】流域治水対策の取組事例 ～住民の主体的な避難行動を促す取り組み～

- ◆ 住民が水害に直面した際に、適切な行動に移せるよう、地域協働型の取り組み「みずから守るプログラム」を平成23年度より展開しています。
- ◆ みずから守るプログラムでは、町内会や自主防災会などの地域コミュニティがみずから行う「手づくりハザードマップ作成」、「大雨行動訓練」の支援を行っています。
- ◆ 情報の出し手である行政と情報の受け手である住民だけでなく、地域防災力の向上を主な活動分野としている防災NPOと連携し、三者協働で実施地域の拡大に努めています。

◆取組内容

手づくりハザードマップ

市町村が発行している“洪水ハザードマップ”を理解し、まだ行動できる段階（早期に避難できる段階）の地域地図を住民みずから作成することにより、地域の水害特性を正しく理解することを目的としています。



手づくりハザードマップ



大雨行動訓練

「手づくりハザードマップ」を活用して行動を体験し、地域の水害と防災情報の内容や活用方法を学びます。



大雨行動訓練



◆進捗状況

令和7年 みずから守るプログラム地域協働事業 実施状況

手づくりハザードマップ作成支援事業	11地区
大雨行動訓練支援事業	9地区

【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～鵜の首地区水位低下対策事業～

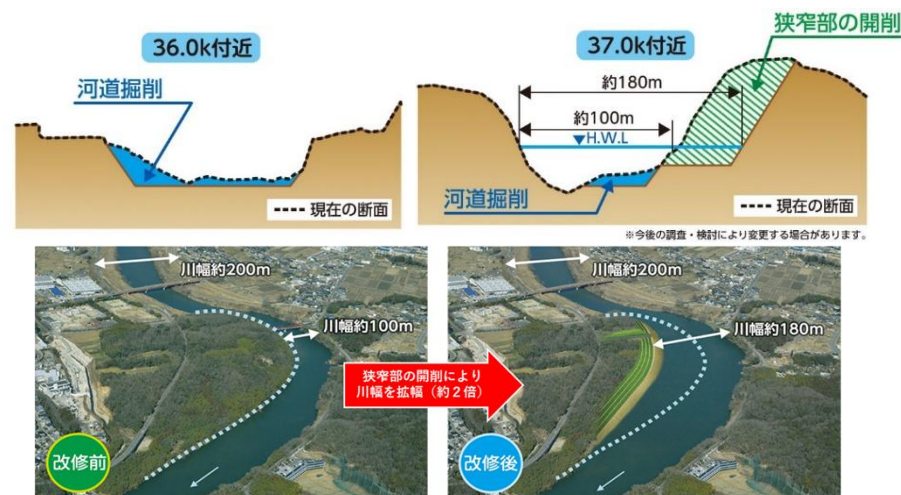
- 鵜の首地区水位低下対策事業は令和2年度より着手。令和7年度から鵜の首橋より下流側の範囲において、埋蔵文化財調査に着手。また、埋蔵文化財調査が完了している、鵜の首橋より上流側の範囲において、樹木伐採や工事用道路整備、河道掘削を実施。

◆事業概要

- 鵜の首地区には、内山2号古墳があり、掘削工事着手に先立ち事業箇所における埋蔵文化財調査が必要なため、継続的に実施をしています。なお、令和4年度及び令和6年度の埋蔵文化財調査箇所からは明確な遺跡は発見されませんでした。
- 令和7年度から埋蔵文化財調査が完了している、鵜の首橋より上流側の樹木伐採や工事用道路整備、河道掘削に着手しています。



【位置図】



● 鵜の首地区水位低下対策事業における整備箇所・整備イメージ

◆整備の流れ



◆実施状況



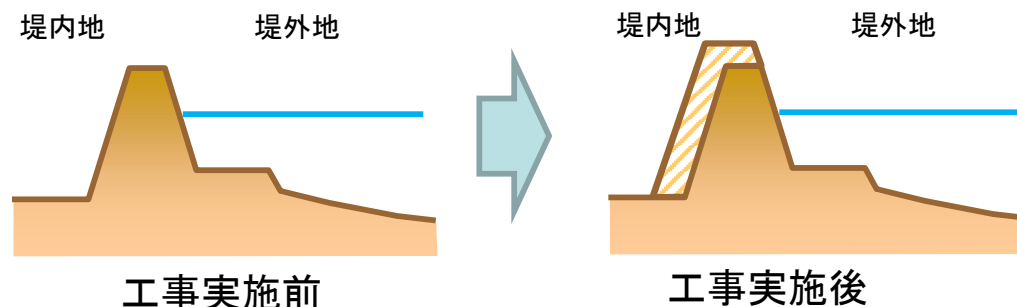
【整備の実施状況 (令和8年2月末時点)】

【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～堤防整備～

- 河道整備流量を安全に流下させるために、堤防断面(高さ・幅)が不足する箇所において堤防整備を実施。
- 上下流、左右岸及び本支川のバランス、背後地の状況等を考慮し、安全度の低下する区間が生じないように実施。

◆事業概要

- 矢作川では、下流部・中流部にて堤防整備を実施しています。
- 引き続き、中流部・上流部において堤防整備を進めていきます。



堤防整備(左岸30.0k付近(岡崎市岩津地先))

◆実施状況

整備前



整備後



【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～東海(恵南)豪雨から25年の広報活動～

- 東海地方に記録的な大雨をもたらした東海(恵南)豪雨から令和7年9月で25年となり、当時の記憶や洪水がもたらす被害とその恐ろしさを風化させることなく、治水事業の必要性や流域治水を幅広く地域へ伝えることにより、地域住民の防災意識の向上を図り、次世代へ伝承することを目的に、パンフレット及び動画を作成し事務所HPで公表しています。
- 動画では、東海(恵南)豪雨の説明に加え、矢作川水系河川整備計画や流域治水の取り組みも紹介し、流域内で普及啓発を行っています。

◆取組内容

●パンフレット

矢作川 中流部 上流部の河川整備
～東海(恵南)豪雨から25年～

平成12年 東海(恵南)豪雨による被害

- 豊田市内では、上下流と比較して矢作川の川幅が約半分になる「鶴の首狭窄部」の影響もあり河川の水位の「盛り上げ」が起こり、越水したため浸水被害が発生しました。
- 矢作川の上流域では土石流や崖崩れ等により、道路が寸断され、多くの橋梁が流失しました。

※東海(恵南)豪雨における矢作川水系の被害
・被災家屋：約2,800棟 ・水害区域面積：約1,800ha

★用語解説
●**狭窄部**：川幅が狭くなっている部分のことです。
●**盛り上げ**：狭窄部や構造物で水が流れにくくなり、その手前側(上流側)で水位が上昇することです。
●**越水**：増水した川の水が堤防の高さを超えてあふれ出すことです。

●動画

矢作川流域の被害

豊田市御立町付近

被災家屋2,801棟、水害区域面積1,798haにおよび戦後最大の洪水被害となりました

矢作川河川改修 整備位置図と改修状況

- 平成12年東海(恵南)豪雨を踏まえて策定した「矢作川水系河川整備計画(平成21年7月)」に基づき、矢作川の早期治水安全度向上を目指し、上下流の治水安全度のバランスを見据えながら、下流部～上流部の整備を順次進めています。下流部の整備に引き続き、中流部の河道掘削や堤防整備を進めつつ、上流部の鶴の首狭窄部についても開削を段階的に進めていき、矢作川全川での治水安全度の向上を目指していきます。

★用語解説
治水安全度：洪水に対する川の安全の度合いを表します。被害を発生させずに安全に流せる洪水の発生する確率で表します。(例えば、100年に一度の割合で起こりうる洪水に対して安全な場合は「治水安全度1/100」と表現します。)

現在整備中の整備メニュー

- 堤防整備
- 堤防強化
- 河道掘削・樹木伐削
- 鶴の首狭窄部開削
- 矢作古川分派対策
- 防災ステーション整備

●活用状況

流域治水対策

安城市 豊田市 岡崎市 幸田町 碧南市 西尾市

矢作川流域治水対策

GEOSPACE 航空写真に加工して作成
©NTT InfraNet, Maxar Products. ©Maxar Technologies.



出前講座において配布(小学校)

【豊橋河川事務所】流域治水対策の取組事例 ～住民の主体的な避難行動を促す取り組み～

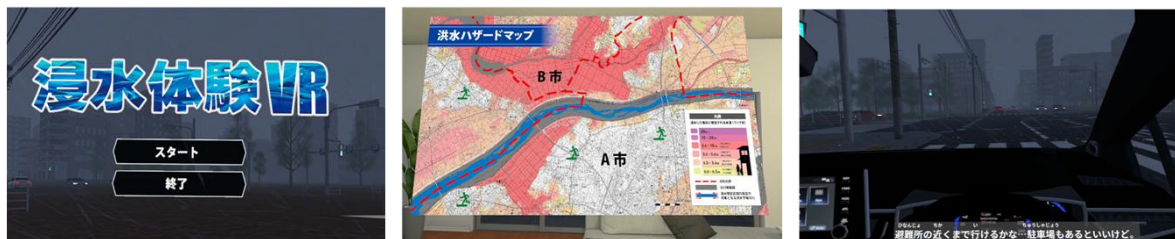
- 地域住民への啓発活動により、流域治水を更に推進するため、浸水体験資料(浸水体験VR)を作成。
- 水害時の避難行動をゲーム感覚で体験できるように、避難行動の選択肢や避難タイミングを複数設定し、体験者が選択できるシステムを構築。
- 体験終了時には、選択した避難行動のフィードバックを設け、避難行動や防災意識の向上につながるように工夫しています。

◆取組内容

シナリオの検討

台風襲来時のマイタイムラインに沿った水害事象、個々人の避難判断、避難行動に対するシナリオを設定。
 避難行動を選択した後の結末(エンディング)は、避難行動や避難タイミングで差を設け、適切な避難行動の選択・逃げ遅れ防止に繋がるようにしている。

ゲーム感覚で体験できるシステム・グラフィックの構築



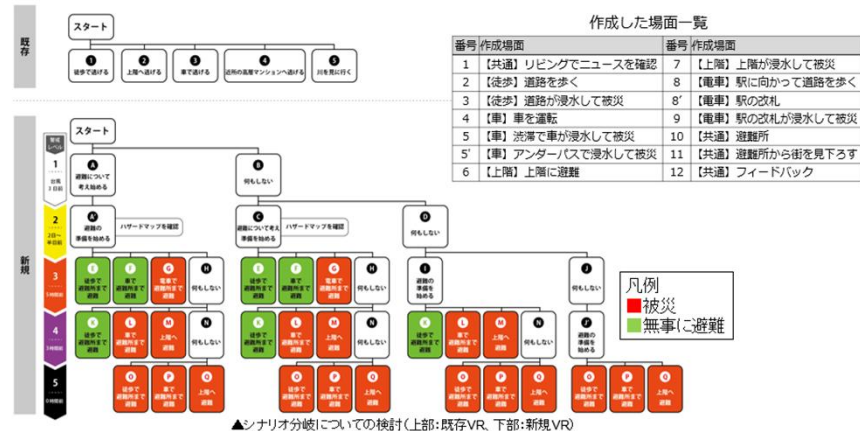
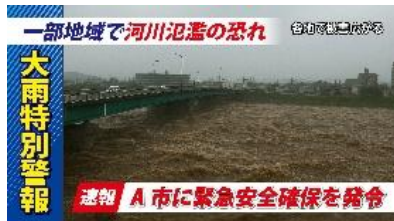
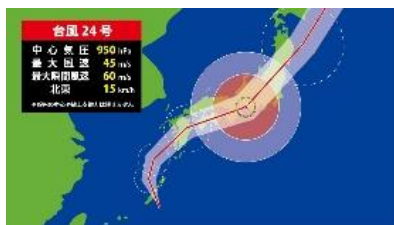
▲スタート画面

▲ハザードマップの確認シーン

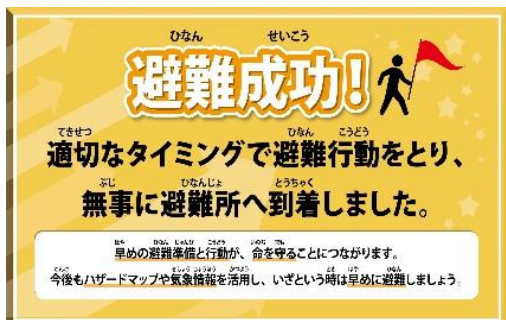
▲車で避難するシーン



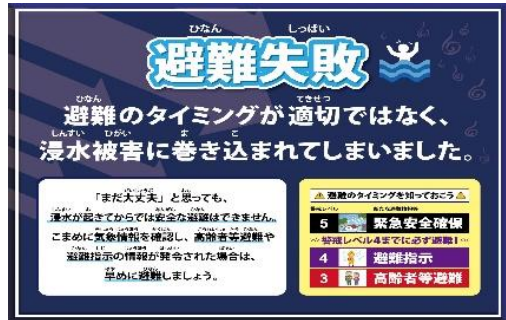
▲テレビでニュース映像を表示(警戒レベルに合わせた気象情報を表示)
 (右上は警戒レベル3、右下は警戒レベル5のニュース映像)



フィードバック資料の導入



▲避難成功



▲避難失敗(徒歩で避難)

防災展での活用状況



イオンモール岡崎での体験状況 (岡崎防災展2025)



イオンモール豊川での体験状況 (あいち防災フェスタ)